

## 「ウリ坊に出会う」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢でよく出会う動物の一つが、イノシシだ。イノシシは決して夜行性ではないが、昼に出会うことは稀で、大抵は夜間に車を運転している時に見かける。



イノシシは群れ(親子)で行動する姿をよく目にするが、時には写真のように1頭だけの時もある。特に冬は、発情したメスを探して移動するオス1頭を見かけることが多い。(軽井沢町小瀬)



昨日(7月25日)の晩、北軽井沢(長野原町と嬬恋村の境界付近)を車で走っていると、前方の道を動物の集団が「閉鎖」しているのが見えた。最初はタヌキだと思ったが、大きさは猫ぐらいしかない。

車で近寄っても逃げる様子がない。よく見ると、これは「ウリ坊」の群れだった。ウリ坊というのは、イノシシの子ども(赤ちゃん)のことだ。成体(大人)のイノシシは、毛の色が黒っぽいが、子どものイノシシはもっと薄い色で、白い縦縞模様があるのだ。この模様がウリ(シマウリ)に似ているので、「ウリ坊」と呼ばれている。



イノシシは冬に発情期を迎え、春先に出産する。1回に6頭前後が多いので、この群れは同時に産まれた兄弟姉妹だろう。「ウリ縞模様」が見られるのは、生後4~5ヶ月までなので、この春に生まれたばかりの子どもにちがいない。大人のイノシシはぜんぜんかわいくないが、ウリ坊はかわいい。ヒトの赤ちゃんは4ヶ月目だと、自分ではほとんど何もできない。しかし、野生動物はすばらしい。夜道を自分たちで歩き回っている。母親イノシシは見当たらなかった。



この縞模様は、一種の保護色だという。春先に産まれて、新緑の時期に母親と移動する子イノシシには、天敵も多い。春の森の「木漏れ日」が、ウリ坊の毛色を保護色にしているという。なるほどと思った。